### checktable

指定した日付範囲のテーブルデータの整合性を検査します。このコマンドの実行には管理者権限が必要です。

#### 構文

checktable [from=yyyyMMdd] [to=yyyyMMdd] [trace=BOOL] [TABLE, ...]

オプションパラメータ

**from=yyyyMMdd**

整合性検査の開始日（開始日を含む）をyyyyMMdd形式で指定します。

**to=yyyyMMdd**

整合性検査の終了日（終了日を含む）をyyyyMMdd形式で指定します。

**trace=BOOL**

整合性に問題のないデータブロック情報の出力有無（デフォルト：f）

1. t: 整合性に問題のない正常なデータブロック情報も出力します。
2. f: 整合性が損なわれたデータブロック情報のみを表示します。

**[TABLE, ...]**

整合性を検査するテーブルをカンマ（,）区切りで指定します。テーブルを指定しない場合、ユーザーに読み取り権限が付与されているすべてのテーブルの整合性を確認します。テーブル名にはワイルドカード（\*）が使用可能です。

#### 説明

対象テーブルがダイジェストアルゴリズムが設定された暗号化プロファイルを利用している場合のみ、整合性検査が実施されます。整合性検査に必要なHMACシグネチャを含まないテーブルは自動的に検査対象から除外されます。

出力フィールドは以下の通りです。

1. table: テーブル名
2. day: 日付パーティション名
3. block\_id: ブロックID
4. last\_block\_id: 最後のブロックID（整合性が損なわれた場合のみ表示）
5. signature: データ生成時に計算されたハッシュ値
6. hash: 整合性検査時に計算されたハッシュ値。この値がsignatureフィールドと異なる場合、改ざんされたと見なします。
7. msg: valid、modified、corruptedのいずれかの値で表示されます。データが改ざんまたは破損している場合、データ参照クエリ実行時に該当データブロックを読み込めないため、スキップされます。
8. valid: 整合性が検証されました
9. modified: データが改ざんされています
10. corrupted: ファイル構造が破損しています

整合性検査で異常がない場合、出力結果は表示されません。

#### 使用例

すべてのテーブルの2014年9月データの整合性検査

checktable from=20140901 to=20140930 \*

syslog\_で始まるすべてのテーブルデータの整合性検査

checktable syslog\_\*